

第1回(2012. 3.26 配信)

篠井純四郎の日本史講座－「間違えやすい日本の古い時代の話」

ごあいさつ

今回から「雲竹斎先生の歴史文化講座」にかかわって急遽登板することになりました。雲竹斎先生が急に降板された理由は知りませんが、一説にはイスラム過激派を刺激して生命の危険を感じて雲隠れしたとか、「中東・アラブ社会」が先生のご専門であるだけに、難しい話になって理解し難いものになってしまったから、あるいは「雲竹斎」という名前が「蘊蓄」という意味ではなく尾籠な話の「ウンチ・くさい」などと、ふざけた名前なのではないか、と読者からクレームがついたからだ、等々諸説があります。たしかに、話の中には鼻をつまみたくなるようなものもありましたが、先般亡くなられた落語家の立川談志師匠は、たしか「雲国斎」と名乗っていたように記憶しています。雲国斎の「国」は「告」だったか「酷」だったのか記憶が定かではありませんが、それに比べれば「ウンチ」は、いわば幼児ことばで、可愛いものではありませんか。

余談はさておいて、北アフリカの地中海沿岸のあるカフェで隣の席に座った老夫婦は、商用で日本に滞在したことがあるというフランス人観光客でした。ちょうど三月だったので、話題がひな祭りのことになったのですが、老夫婦が言う「ウーコンノサークラ」という言葉の意味がわからなくて戸惑ったものです。たぶん「鬱金桜」のことだと思いましたが、よく聞いてみると、ひな壇に飾られている「右近の橘と左近の桜」のことだったのです。そこで、「右近は桜ではなく橘だ」と説明しますと、日本滞在中知り合いになった家で、「右近の桜」だと教えられたと言うのです。

私たちは、古い時代の話や昔からのしきたりなど、学校で習ったり本で読んだりしていても、いつともなく忘れてしまい、知っているようでいざとなれば自信が持てないことが多いのですが、日常生活に重大な影響をもたらすような事柄でないかぎり、しっかり覚えておく必要がないのは当然のことです。しかし、知らないより知っていた方が良いでしょう。ましてや外国人には日本の歴史や文化は正しく伝えなくてははいけません。

そこで、友人知人を相手に片っ端から思いつく限りの古い時代の話を持ち出して、どんな話が忘れられてしまったか、あるいは記憶が曖昧になってしまったのかを聞いてみました。みんなから迷惑がられてたいへん嫌われましたが、思ったとおり記憶に曖昧な話がたくさん出てきました。なかには決定的な間違いをしている話も少なくありませんでしたので、思惑どおりになって私は満足したものです。これらの中のいくつかをまとめてみました。なお、同じ歴史文化の話ですから「雲竹斎先生」の書かれた話と重複するものや一部引用させていただいたところもあります。

また、人により地域により、古い時代の話にはいろいろな言い伝えや解釈などがあるだろうことは当然です。以前にも自分自身の体験談を出版したことがありましたが、ご親切にも「自分はこう思う」とか、あるいは「おまえのいっていることは間違いだ」などと訂正を求めてきたり、抗議の内容の電話やお手紙をいただき、大変驚いたものです。あの本は、長期にわたる外国生活での自分自身の体験談であり、かつまた、あくまでも私の考えであるとお断りしていたのですが、世の中には「ご親切な」方が大勢いらっしゃるものだと痛感しました。なるほど、これではテレビドラマなどで「登場する人物や団体は架空ものです」と見え透いた断りを入れるのも頷けたものでした。

今回の話の内容にも私の独断と偏見がかなりあることは承知の上です。鼻をつまみたくなるだけでなく、目を覆い、耳をふさぎ、眉に唾をつけたくなるような話もあるかも知れませんが、そういうわけでこのたびは、ご批判、ご批評などは、ぐっとこらえていただくようお願い申し上げます。

学問として読むものではなく「うんちく」といった意味で軽く読んでいただければ幸いです。この場合はウンチとクに分けないでお読みください。そういうわけで、いわばあなたの「脳細胞の御膳」に「古い歴史や常識の食材」を調理して並べてみたわけですが、脳細胞が消化して脳の活性化に役立てていただければ幸いです。くれぐれも消化不良を起こさないように願っております。

猿人・原人と旧人・新人

人間の祖先については、「ネアンデルタール人」とか「北京原人」などという言葉が教科書にも記載されていますから、一応は学校で学んだものですが、覚えている人は少ないようです。「人類は猿から進化した」と言ったのはダーウインでしたが、では「猿と人間の違いは何か」ということになるかわからない。たまに書籍などで「猿人」や「原人」という言葉が出てくると、猿人と類人猿とは同じなのか、はてまた「原人」という言葉とどう違うのか、よくわからない人が一般的でしょう。

学問上、古代における人間と猿とは常時二足歩行するかどうかで分かれていますが、人類の進化の過程は猿人、原人、旧人、新人と分類されています。「猿人」とは、およそ 400 万年前から 200 万年前に生息していたとみられる人類最初の祖先で、「原人」とは、次に出現した人類です。猿人に比べて脳の容積も大きくなり、火を使うなど進化した人類です。「旧人」とは、およそ数万年前まで生息していたと思われる人類で、「新人」とは現代人の祖先です。したがって、先輩社員が新入社員を「こんど入社した新人の……」などと言うのは、「新人」が「新人の……」と言っているようで、考えてみればなんとも奇妙な話です。

1992 年、エチオピアで発見された人骨化石は、顔や体型はチンパンジーに似てはいましたが、440 万年前には直立して歩いていたと思われています。その後、アフリカ各地で同時代の人類の痕跡が多数発見されて、総称して「猿人」(アウストラロピテクス)と呼んでいます。

1974 年、エチオピアで発見された若い女性の全身骨格の 4 割にあたる人骨化石は、アファール猿人(370 万年前～270 万年前)と呼ばれますが、この女性は「ルーシー」と命名され、「人類の母」ともいわれています。このルーシーという名前は、発見者ジョハンソン氏のグループが復元作業中に聞いていたビートルズの「ルーシー・インザ・スカイ・ウィズ・ダイヤモンド」という歌の名前からつけたという、なんとも肩すかしを食らったようなつまらない話です。その後、2000 年に 3 歳の女の子のアファール猿人の人骨化石が完全な形で発見されました。

1891 年、ジャワで発見された人骨化石(ピテカントロプス・エレクトス=ジャワ原人)は、今から 150 万年前に生息し、猿人より人に近かったので、学問上「原人」(ホモ・エレクトス)と呼びますが、1980 年、ケニアで発見された骨の化石も、180 万年前に生息していた原人の骨だといわれています。北京原人(シナントロプス・ペキネンシス)もこの時代です。

1856 年、ドイツのデュッセルドルフ郊外のネアンデル渓谷から発見された人骨は、20 万年前のものと思われています。有名なネアンデルタール人(ホモ・ネアンデルターレンシス)ですが、この年代前後の人骨化石が続々と発見されて、これらを「旧人」と呼んでいます。

1868 年、フランスのドルドーニュにあるクロマニオン洞窟で、4 万年前の人骨の化石が発見されました。これが、新人(ホモ・サピエンス)と呼ばれる現代人の祖先です。

1987 年にハワイ大学の R・キャン氏が、多数の人骨からミトコンドリア DNA を採取して調べた結果、アフリカで発見された 20 万年前のひとりの女性に行き着いたといいます。この人骨を、恐れ多くも『旧約聖書』に出てくる最初の女性の名前をとって、「イブ」と名づけています。なお、この方法で調べたところ、日本人の中には欧米人にはないアルコールがまったく受け付けない人がいますが、先祖は中国東北部のあるひとりの女性だったという説があります。

人類は東アフリカの大地溝帯で発生して、メソポタミアから東西に分かれて進出していき、環境に順応し、メラニン色素の量などの減少などによって、白人や黄色人が出現したといわれて

います。「人間は猿から進化した」と発表したのはダーウインですが、ユダヤ教やキリスト教では神がアダムとイブを造ったという『旧約聖書』の記述を固く信じている人も多くおりますから、キリスト教徒の多い欧米では学校で進化論を教えていても、その矛盾に悩んでいるのは皮肉です。『日本神話』にも似た話がありますが、最近の日本人は宗教には無関心の人も多いようですから、その点は欧米人より問題が少ないようです。喜んでいいのか悪いのかわかりませんが。

しかし、現在の学説はだんだんと猿説に近づいています。しかも、そのルーツは黒人だそうです。遺伝子は黒人の方が優性だから、近い将来人類すべてが黒人に帰っていくことでしょう。色が浅黒いといって悩んでいる人は、もしかすると誰よりも進化した「未来から来た人」かもしれないのですから、胸を張って歩きましょう。もっとも、下を向いて肩を落として歩けば、猿人や原人が進化しないでそのまま現れた、と誤解されるかもしれません。

(篠井純四郎)